

ハーバリウムの不思議に迫る！ 2種類 類 の 加工 方 法

ふしみ

子ども新聞

2022年
6月号

【むかいじま版】

発行

inote+P

(あいのてぶらすぴー)



余談雑談

向島バザールに出店しているお店で私が気になったのは、ハーバリウムのお店。

一人の女性がお店を出していました。

私は、「どうしてこの店をしようと思っただんですか」と聞きました。

お店の人は「もともとお花が好きで、ハーバリウムを習いに行ったら、ますますお花が好きになって、のめり込んだんです。」と言っていました。



瓶の中に入っている猫じやらしに青い色がついていたので、この青い猫じやらしはなんですかと聞くとこれがブリザードフラワーと言って色をつけて加工してあるものです」と教えてくれました。

ハーバリウムの中に入っているのは、ブリザードフラワーとドライフラワーの二種類があるって言うことを教えてもらいました。(小学四年生記者)

私は「中嶋農園さん」を取材しました。
中嶋農園さんに野菜を育てる



時に気をつけていることはなんですかと質問しました。
中嶋農園さんは肥料と水やりのタイミングに気をつけている。「と言っていました。」

肥料や水やりのタイミングを気をつけていることから、野菜は生きているんだなあと、すごい事だと知りました。(小学六年生)

僕は子供店長がやっているゲームセンターを取材しました。
足にスリッパをはめてバケツに入れるゲームを体験させて貰いました。
一つ目は外れて、二つ目は入りました。楽しくゲームができてよかったです。(小学一年生)



当日子ども記者の取材内容を大新聞として掲示しました

むかいじまのおっちゃんに聞いてみた！のコーナー

僕は、親戚のおじさんに「タイムマシーンにのって若い頃の自分に会えるとしたら何を言いますか」と聞いてみました。

おじさんは「あっちゃん(おじさんの名前)かっこいいと言いました。」

僕は、今はそんなにカッコ良くないのに、なと思いました。(小学二年生)

僕はコーヒー屋さんと同じ質問をしました。そして「コーヒーさんは若い頃の自分に「がんばれよう」と言っているよ」と言っていました。(五歳)

▽子どもの企画を大人が考えるというのは、なかなか難しいと今回のワークショップで感じました。

向島駅前わいわい元気バザールというイベントの中での企画としては、勉強要素が多すぎた。子供が楽しんで取材をするところばかりイメージしていました。大人よがりな企画となっていました。

周りがわいわい楽しく過ごしているところで、集中して記事を書くことは、なかなか大変。バザール内で実施する場合は、子どもが楽しい、おもしろい、やってみたいと思える工夫が必要。

今回は、企画を練り直して、再チャレンジだ。

▽直接会ってコミュニケーションを図る事が少ない時代の私たち。考えた事をすぐに会話として相手伝える機会が少ない。思考スピードが遅くなっている気がする。

子どもたちは、井戸端会議をしている大人を見る姿も減った。コミュニケーションの在り方を、自然と学べる機会が減ったように思う。入店してから一度も店員さんと会話する事なく、注文して会計を済ます事が出来る飲食店もある。

社会から会話が減りつつある。コミュニケーション力は、自然と身につけるものではなく、学ぶ時代と言われている。

子ども新聞の記者活動が地域の活性化と人々のコミュニケーションの、きっかけとなる事を願っている。

子ども記者 大募集



友だち募集
LINEで面白いむかいじま版を届けて！



パイアがあります

知ってるけど知らない食べ物



INOTE.PLUS.P

(あいのてぶらすぴー)
ダイレクトメッセージから
注文ください